

『アメリカン・ディアスポラ』シリーズ 第5回

移民の多次元性ーメキシコカン・ディアスポラー

講師：マリオ・ヌニェス・マリエル

ニュージャージー州立ラトガース大学

トランスナショナルメキシカンスタディーズ研究所長

米国におけるメキシコ系アメリカ人社会およびメキシコ人社会は、さまざまな困難を抱えながらも、この国で多角的に台頭しつつある。逆境、差別、強制送還、機会の不平等、オバマ政権の不適切な移民政策ー共和党よりさらに反移民的であり、2009～2011年間で過去最高の強制送還件数を生んだーなど困難を極めるとしても、である。本講演では、多角的なベクトルとして移民を見据える方法論的アプローチを用いることとしたい。

メキシコからの対米移民現象は、地理的な理由から特異な様相を呈している。すなわち、3,000キロという地続きの国境が介在しているがために、両国の社会は、避けがたく、ますます深い意味で、一体化の過程を歩まざるを得ないのである。この地理的条件が以下の各次元の基盤となっている。

移民の果たすジオエコノミーの次元での役割は、メキシコでは仕送り送金を通じて、米国では破格に安価な給料のために国民からは敬遠されるが、それゆえに米国が国際的競争力を保つことができている、不可欠な労働を担うことで、経済状況を補強可能にするものである。

移民のジオポリティックスとは、米国在住のメキシコ人にはメキシコでの選挙に投票権が付与されており、その決定的な役割を多くの移民が果たすようになれば、メキシコ大統領を決めるだけの影響力を持ちうるということである。同時に、メキシコ系アメリカ人はすでに、米国で誰が大統領になるかに決着をつける上での決定的な存在となっている。

移民のジオストラテジーの面での役割は、米国とメキシコ両国の国家安全保障問題への最も深刻な脅威、つまり麻薬テロリズムと関係している。さらには、メキシコ人とメキシコ系アメリカ人は、米国軍においてきわめて重要な層をなしており、武装戦争で決定的な存在なのである。

ジオカルチャーの次元では、移民は米国とメキシコの間での文化移植の中心的なベクトルであり、言語、習慣、食文化、飲料・酒類、音楽、祝祭、何千年という歴史を持つ芸術・文明をもたらし、米国を豊かにしていることを強調しておく必要がある。

こうした特性からわれわれは、「北米大陸における一体化の進行は不可避である」と米国人

に対して断言できるのである。